

嵐山町総合戦略

検証結果

(令和3年度)

令和5年1月

基本目標1

雇用をつくる <安心して、いきいきと働けるまち>

■基本的方向

- 農業を中心とした産業の活性化を図ります
- 新たな企業誘致や町内企業への支援により安定した雇用を創出します
- 就労機会の拡充を図ります

■数値目標

	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
町内総生産額	85,652 百万円	90,000 百万円	86,712 百万円				
納税義務者数	8,276 人	8,500 人	8,387 人				

■重要業績評価指標(KPI)

農業を中心とした産業の推進							
	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
農産物直売所における農業者の売上高	179 百万円	200 百万円	180 百万円				
嵐山産小麦農林 61 号を使った商品の売上高	24,174 千円	70,000 千円	46,612 千円				
千年の苑ラベンダー農園による経済効果 (DMO)	175,555 千円	161,310 千円 (R3 年度)	69,007 千円	—	—	—	—
千年の苑ラベンダー農園の来場者数 (DMO)	75,646 人	100,000 人 (R3 年度)	2,279 人	—	—	—	—
千年の苑観光手芸用施設利用者数 (DMO)	156 人	1,420 人 (R3 年度)	57 人	—	—	—	—
新たな企業誘致と町内企業への支援による雇用の場の確保							
	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
企業誘致事業による立地及び拡張企業数 (累計)	—	3 件	0 件				
新規創業者数及び第二創業者数 (累計)	—	3 件	2 件				
人材確保のためのマッチング支援事業実施数(累計)	—	3 件	未実施 (コロナ)				
潜在的な働き手の確保							
	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
待機児童数	9 人	0 人	0 人				

■施策の内容

○農業を中心とした産業の推進

<p>実施したこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における農産物生産組合の売り上げ減少を防ぐため、国によるコロナ対策の臨時交付金を活用し、屋外販売用テントの購入及び一定額以上購入いただいた方へのサービス品（町内農産物）の買い上げを行った。 ・幻の小麦「農林 61 号」を使用した「肉汁うどん」（干しめん）が商品化され、販売開始となった。 ・コロナ禍のため、ラベンダーまつりとして通常のイベントを開催することができなかったが、6月8日から6月20日にかけて「甦れラベンダー応援 WEEKS」を開催した。 ・更新を迎えたラベンダーの補植用苗木の一部を町内生産者から購入した。 ・千年の苑観光手芸施設を活用し、ラベンダー苗づくり講習を10月2日、クリスマスリースづくり講習を12月3日、手芸講師養成研修を1月26日、29日に開催した。
<p>効果が あったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス品である町内農産物の買い上げを行うことで生産者の生産意識が高まり、生産量の増加につながった。 ・「肉汁うどん」（干しめん）は、駅や直売所だけではなく、パーキングエリア（嵐山 PA、高坂 PA、羽生 PA）でも販売されるなど、多くの方に PR することができ、2,000 箱が完売となった。 ・「甦れラベンダー応援 WEEKS」に 2,279 人の来場者があった。入場料は無料としたが、駐車場収入のほか、お土産品（ラベンダー開発商品・肉汁うどん等）、町内事業者の各種商品を販売し、嵐山町観光協会及び町内商工農業者へ稼げる場を提供することができた。また、イベントの開催により、嵐山町の認知度向上や物販・雇用等の促進に効果があった。 ・手芸施設を活用し各種講習会を開催することで、次年度以降のラベンダーまつり等で行うイベント（ラベンダースティックづくり教室など）における講師の確保及び養成ができた。
<p>課題として 残ったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において農産物直売所の弁当や総菜など加工品に対する需要が増えているが、売り場面積には制限がある。加工品の売れ行きによって、生産者が何度も直売所へ納品するのは負担が大きいため、大型冷蔵庫など保管場所を直売所内に確保することが課題となっている。 ・小麦の生産面積は、乾燥調製、製粉対応が可能である最大量の 13.8ha となっている。今後、協賛店からの需要に応じた小麦の生産及び提供が課題となっている。 ・ラベンダー園を運営・管理する費用の捻出が課題となっている。 ・コロナ禍のため、ラベンダーイベント期間中の手芸施設の活用ができなかった。次年度以降、施設の活用方法について検討が必要である。

○新たな企業誘致と町内企業への支援による雇用の場の確保

実施したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・花見台工業団地拡張地区において、事業計画の見直し等について県企業局と調整を行った。 ・川島地区において、業務代行方式組合土地区画整理事業による産業団地の整備を目指し、地権者を含め関係者との調整を進めた。 ・創業を考えている、また開業して間もない方を対象にらんざん創業塾を開催し、令和3年度は9名の参加があった。
効果が あったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・花見台工業団地拡張地区において、県企業局による造成工事が開始された。 ・川島地区において、事業推進のための地権者組織である嵐山町川島土地区画整理組合設立準備会が設立された。 ・嵐山小川インターランプ内において、物流施設の建築工事が進捗している。 ・らんざん創業塾の受講者より、販売促進支援金給付実施事業を活用した2名の女性創業者が起業した。
課題として 残ったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・花見台工業団地拡張地区については、造成工事完了とその後の企業立地に向けて県企業局と一層の連携が求められる。 ・川島地区については、業務代行予定者の募集等事業推進のための取組を準備会と連携し引き続き進めて行く必要がある。 ・販売促進支援金給付実施事業は、国によるコロナ対策補助を活用した事業であり、支援の継続性が課題となっている。 ・コロナ禍のため、町内企業が参加する予定だった就職説明会が開催できなかった。

○潜在的な働き手の確保

実施したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・シルバー人材センターにおいて、就業機会の開拓・拡大を目指して新たに空き家管理業を開始した。
効果が あったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・シルバー人材センターでは、昨年引き続きコロナ渦で雇用状況も大変厳しい状況であるが、仕事を提供することができた。
課題として 残ったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・シルバー人材センターへの入会希望者が、企業の定年延長等により高齢化してきており、会員の平均年齢も高くなってきている。また、高齢者ゆえのコロナ感染リスクの不安もあり、入会希望者も少なく会員の確保に苦慮している。

基本目標 2 人の流れをつくる <地域資源を活かした魅力あるまち>

■ 基本的方向

- 町の知名度の向上を図り、嵐山町を応援してくれる人の増加を目指します
- 嵐山町への観光客を増やし、関係人口の増加を図ります
- 観光地域づくり法人（DMO）の登録を目指す観光協会と連携し地域の活性化を図ります

■ 数値目標

	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
公式ツイッター フォロワー数	1,263 人	3,000 人	1,801 人				
入込み観光客数 の増加	436,163 人/年	480,000 人/年	196,112 人/年				

■ 重要業績評価指標 (KPI)

積極的な情報発信による知名度の向上							
	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
嵐山溪谷バーベキュー場 の来客者数	73,884 人/年	100,000 人/年	31,285 人/年				
杉山城跡の来客者数	11,300 人/年	12,000 人/年	11,500 人/年				
ホームページ閲覧回数 (DMO 開設サイト)	—	660,000 ヒット	575,915 ヒット				
駅前を拠点とした新たな賑わいの創出							
	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
地域活力創出拠点の物産 売場での売上高	2,391 千円	61,020 千円 (R3 年度)	5,721 千円	—	—	—	—
地域活力創出拠点の来客 者数	327,000 人	339,000 人 (R3 年度)	267,000 人	—	—	—	—
地域活力創出拠点の観光 情報発信による経済効果	187,437 千円	255,270 千円 (R3 年度)	48,060 千円	—	—	—	—
観光×農業による地域資源の魅力創出							
	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
交付対象事業による施設 の利用者数 (DMO)	—	161,500 人	62,844 人				
交付対象事業による売上 高 (DMO)	—	71,928 千円	28,715 千円				
地元産品による新規開発 商品数 (DMO)	—	9 商品	8 商品				

■施策の内容

○積極的な情報発信による知名度の向上

実施したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ツイッターを活用する課に偏りがある。全庁で活用ができるよう各課への呼びかけや研修を行っていく必要がある。 ・現在 SNS ツールとしてツイッターとユーチューブを活用しているが、幅広い年齢層や利用者数の獲得のため新たなツールの導入が必要である。
効果が あったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ツイッターや広報を見て大河ドラマのロケ地である鎌形の八幡神社に、遠方からも観光に来ていただいた。 ・ツイッターを活用し、積極的に嵐山町の魅力を発信したことでツイッターのフォロワー数が 261 人増加した。
課題として 残ったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ツイッターを活用し情報を発信する課が限られているため、全庁的に発信ができるよう各課への呼びかけが必要である。 ・現在 SNS のツールとしては、ツイッターの他にユーチューブがあるが、幅広い年齢層や利用者数の獲得のため、新たなツールの導入が必要である。

○駅前を拠点とした新たな賑わいの創出

実施したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・嵐山町ステーションプラザ「嵐なび」を拠点としたレンタサイクルを開始した。 ・空き家、空き店舗、空き地等を活用して、町民の暮らしの中に「ちょっと楽しい、ちょっと面白い、ちょっと心地よい」を感じる魅力的なエリアを創出するためのプロジェクト「Emo-Town. Pro#らんざん (エモタウンプロジェクト)」（嵐山町エリアリノベーション支援事業）を開始した。「リノベーション講演会」を 1 回、「ワークショップ」4 回開催した。
効果が あったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活力創出拠点である「嵐なび」については、商品点数の増加等もあり、新型コロナウイルスの影響を受けた令和 2 年度に比べ、特産品や町内事業者の商品販売実績を大幅に伸ばすことができた。 ・「Emo-Town. Pro#らんざん」において行われた 4 回目のワークショップでは、「空き家」「公園」を活用した、にぎわい企画の発表会を開催した。活気ある意見交換を行われるなど、今後のエリアリノベーションの実現に向けて、期待の高まる内容となった。
課題として 残ったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活力創出拠点である「嵐なび」において、特産品の販売点数及び委託販売する町内事業者をさらに増加させる必要がある。 ・「嵐なび」を活用したイベントの実施、集客効果を高める方法の検討が必要である。 ・「Emo-Town. Pro#らんざん」において次年度以降、アイデアを具体的なイベントとして実現していくことが課題となっている。また、エリアリノベーションは民間事業者が主導し、原則、補助金に頼らず、自らの資金で魅力的なエリアを創出することが目的であり、継続的にエリアリノベーションを進めるため、エリアプロデューサーの発掘が重要である。

○観光×農業による地域資源の魅力創出

<p>実施したこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 槻川の商業利用を図るため、嵐山溪谷バーベキュー場に隣接する河川区域について、6月14日に「都市・地域再生等利用区域」の指定を受けた。 ・ 観光客向けのお土産品の開発に取り組むことができた。ラベンダー花穂の販売を行った。 ・ 杉山城跡については、パンフレットを役場庁舎ロビー特設コーナー及び杉山城跡入口（外郭）看板脇において通年の無償配布を実施し、見学者等の知識向上に対する利便を図った。また、ホームページ上に掲載し、インターネット上でも閲覧できるよう改善した。 ・ 嵐山町町名発祥の地である嵐山溪谷につながる槻川沿いの遊歩道等の除草作業を行い、観光客や町内の方の憩いの場を確保した。
<p>効果が あったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「都市・地域再生等利用区域」の指定により、従来徴収していた駐車場料金のほかに、入場者に対しても利用料の徴収が可能となった。 ・ ラベンダーオイルやマスクスプレーなどお土産品を販売まで行うことができた。 ・ 新商品の販売開始に伴いプレスリリースを実施した。メディア掲載により商品のPR効果のほか、イベントについてもPRができ集客につながった。 ・ 杉山城跡については、町からの情報発信に加え、テレビ報道等のメディアにとりあげられたことにより賑わいを見せた。その後も勢いは衰えず、年間を通じて見学者等が絶えない状況である。高度な築城技術と保存状態の良い史跡であることについてより多くの方々にPRできた。 ・ 嵐山溪谷バーベキュー場から飛び石を渡り、嵐山溪谷までの槻川沿いの遊歩道は、嵐山町の自然を身近に感じてもらう遊歩道として多くの方が散策している。
<p>課題として 残ったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 嵐山溪谷バーベキュー場をさらに魅力ある観光スポットとするため、河川空間を活用したウォーターアクティビティの開発を行い、バーベキューを目的に訪れる来場者に新たな体験を提供する。そのため「都市・地域再生等利用区域」の拡大が必要となっている。また、閑散期である冬期の集客増加を図るため、アウトドアコンテンツなどのアクティビティの開発も課題となっている。 ・ ラベンダー商品の残った精油、芳香蒸留水、蒸留をしない分のラベンダー等の活用について今後の検討が必要である。 ・ 杉山城跡については、大型バスを利用した見学ツアーの問い合わせがあるのに対し、トイレや駐車場施設が対応できていない現状があり、改善が必要である。 ・ アクセス道路の案内板、史跡内の看板類や散策路等の整備、史跡の保護対策を行う上で「杉山城跡整備基本計画」の策定が求められている。 ・ 嵐山溪谷周辺において引き続き良好な自然を堪能できるよう、遊歩道等を適正に維持管理するための財源確保が課題である。

基本目標 3

安心して結婚・出産・子育てができる社会をつくる <親子の笑顔があふれるまち>

■基本的方向

- 結婚の機会拡大と安心して子どもを産み育てられる環境づくりを進めます
- 夢と希望を持って成長していけるまちを目指します

■数値目標

	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
合計特殊出生率	0.87	1.13 (R05年度)	0.97 (R02年度)				
地域子育て支援 拠点の年間利用 者数	4,806人	5,700人	5,784人				

■重要業績評価指標(KPI)

結婚・妊娠・出産への総合的な支援							
	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
乳幼児健康診査受診率	97.5%	100%	98.7%				
法定外予防接種の受診率	80.8%	85%	64.9%				
子育て支援の充実							
	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
待機児童数	9人	0人	0人				

■施策の内容

○結婚・妊娠・出産への総合的な支援

<p>実施したこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新規事業として、臨床心理士によるこども心理相談、すくすく相談に作業療法士を新設、新生児聴覚スクリーニング検査の助成を開始した。 ・乳幼児健診や各種相談、教室等、新型コロナウイルス感染症対策を万全に実施した。 ・子どもを望む夫婦を対象に相談や検査・治療費の一部助成を実施した。 ・中学3年生を対象としたインフルエンザとおたふくかぜについて法定外接種を行った。コロナ禍でインフルエンザの流行が無く、インフルエンザ接種率が大きく下がった。
<p>効果が あったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代包括支援センター（健康増進センター）に保健師、看護師、管理栄養士、保育士等の専門職が常駐し連携・情報共有しながら全ての母子を見守る体制が整ったことにより、育児不安の軽減、児童虐待の防止につながっている。 ・個別通知で乳幼児健康診査の受診を勧めるとともに、新型コロナウイルス感染症対策を万全とすることにより、健診受診率を100%に近く維持することができた。未受診者に対しては、電話、訪問、保育園からの情報等で状況把握している。
<p>課題として 残ったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・出生率の低下に反して支援の必要な母子が増えており、令和元年度に開設した子育て世代包括支援センターにおいて、ニーズに応じた支援体制が求められている。

○子育て支援の充実

<p>実施したこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「子育てステーション嵐丸ひろば」に指定管理者制度を導入した。 ・令和3年10月からこども医療費助成対象を18歳までに拡大した。 ・多子世帯への経済的負担軽減として、国民健康保険税については、国保特別交付金を活用し、新たに多子世帯の第3子以降の子どもの均等割額を減免した。また、学校給食費については、第2子に1/2を第3子以降に全額を助成した。 ・都市公園内の遊具については、法令による定期点検を実施し、児童公園内の遊具については、職員による老朽化の状況の確認を行った。
<p>効果が あったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「子育てステーション嵐丸ひろば」への指定管理者制度導入により、委託事業所が独自事業を実施しやすくなり、利用者のニーズにあった事業展開をすることができた。利用者数も前年度より延1,422人増加した。 ・こども医療費受給登録者数が440人増、扶助費も前年比の1.4倍となり、高校生までの子育て世帯への医療費負担軽減を図ることができた。 ・剪定・伐採や遊具の点検など公園の維持管理を適切に行うことで、安全性が確保された。

<p>課題として残ったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医療費助成対象の拡大など経済的負担軽減は、子育て施策としての結果がすぐには表れないため、継続した支援が必要となる。 ・支援を必要としている家庭が増えてきており、相談業務やケースワークに携わる人員確保が課題となっている。 ・児童公園の遊具については老朽化が進み、修繕が必要な遊具や利用できない遊具が増加している。点検結果や利用状況を勘案しながら修繕・撤去等を含め検討する必要がある。 ・町民からは、引き続き大型遊具の設置の要望がある。大型遊具等の設置とともに、遊具の集約化を行う必要がある。
-------------------	--

基本目標 4 住みよい環境をつくる <人が集い、魅力的な暮らしを営むまち>

■ 基本的方向

- 武蔵嵐山駅周辺の活性化を図ります
- 安全・安心に暮らせるまちづくりを進めます
- 持続可能な質の高い暮らしの実現を目指します

■ 数値目標

	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
転入者数の増加 (社会増減累計)	329 人増 (H28-R01)	200 人増 (R03-R07)	41 人減 (R03)				
住みよいと思う 割合	76.8%	80.0%	—				

■ 重要業績評価指標 (KPI)

武蔵嵐山駅周辺エリアの充実							
	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
武蔵嵐山駅の乗降客数	7,287 人/日平均	8,500 人/日平均	5,942 人/日平均				
西口駅前広場の整備率	0%	100%	53.2%				
安全・安心な地域づくりへの取組							
	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
自主防災組織における防 災訓練の実施数	35 回/年	36 回/年	18 回/年				
災害時用保存食の備蓄量	6,766 食	8,000 食	7,454 食				
持続可能なまちの機能の充実							
	R1 実績値	R7 目標値	R3	R4	R5	R6	R7
主体的な道路維持管理団 体数 (アダプトプログラム及び 嵐山まもり隊数)	24 団体	30 団体	32 団体				

■施策の内容

○武蔵嵐山駅周辺エリアの充実

実施したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・武蔵嵐山駅西口の放置自転車については、取り締まりをほぼ毎日実施した。 ・武蔵嵐山駅西口整備事業については、課題であった用地買収が全て完了した。
効果が あったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・武蔵嵐山駅西口の放置自転車の減少により、良好な環境を確保することができている。 ・「嵐山町の玄関口の活力の復活」を目標とし、「武蔵嵐山駅西口の良好で魅力的空間の形成」、「武蔵嵐山駅周辺の環境整備と利便性の向上」を図るため、西口駅前が大きく変わり、機運の高まりがある。
課題として 残ったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・武蔵嵐山駅西口事業の用地交渉が終了しており、関係機関・隣地関係者との協議を早急に進め、工事施行を計画的に進める必要がある

○安全・安心な地域づくりへの取組

実施したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であったが、各自主防災組織が開催方法を工夫し防災訓練を実施した。災害時に無事を知らせる「安否確認タオル」を8月に各地区に配布した。 ・地域やPTA等による下校の見守りをメインとしたパトロール活動を実施した。 ・防災行政無線やメール配信サービス「嵐山町あんしんメール」を活用し、防犯情報等を町民へ提供した。 ・新たな防犯灯(LED)については、地区の要望に対し、基準に見合った場所に設置することができた。
効果が あったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練を実施することで災害対策における意識を醸成できた。「安否確認タオル」を活用した訓練を2つの防災会で行い、タオルの有効性が確認できた。 ・大地震発生時には、安否確認タオルを用いて安否確認したいという町の考えを示すことができた。
課題として 残ったこと	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練については、参加者が固定化しているため、訓練未参加者への防災意識の醸成が課題である。 ・自主防災組織が災害時に作成する安否確認の名簿等について、町への報告など情報共有や活用方法を検討する必要がある。 ・犯罪が発生しにくい地域をつくるため、町民、警察、自治会等各種団体と連携して地域が一体となった防犯活動を行う必要がある。併せて、自助・共助の考えの普及が課題である。 ・道路照明灯など大型電灯はLED化されていない。今後のLED化するための費用の確保が課題である。また、機器リースが終了した後の修繕については、修繕費用が必要となるため、財源確保が課題である。

○持続可能なまちの機能の充実

<p>実施したこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度より開始した草の根的なボランティアである嵐山町まもり隊については、19 団体 283 名が公園や道路などの環境美化活動、生涯学習分野でのボランティア活動を行った。 ・里地里山の保全管理については、町内での活動団体（6 団体）により、広野地内、花見台地内、菅谷地内、千手堂地内、鎌形地内他で活動が実施された。 ・秋の美化清掃活動については、新型コロナの感染状況が若干落ち着いたため、実施することができた。活動にあたり環境美化推進委員会議において「彩の国「新しい生活様式」における地域清掃活動」を配布し活動方法を周知した。
<p>効果が あったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「嵐山まもり隊」など地域住民の方のご協力により維持管理がされている公園・緑地が増加した。 ・コロナ禍であったが各団体が工夫した活動を行うことで、里山の維持管理が計画的に進められた。 ・秋の美化清掃活動では多くの町民が参加し、快適で美しく清潔な居住環境を整えるといった活動目的は達せられた。
<p>課題として 残ったこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・嵐山町まもり隊の新規登録団体数や登録者数はここ数年で増加したが、登録者の高齢化が進んでいる。また、コロナ禍で会員が集まったの活動が難しく、次年度以降、登録の継続を希望しない団体も出てきている。作業効率のよい機械等の支援を行うことで少人数でも活動が可能となるが、財政面で希望どおりの支援ができていない。 ・里山保全活動にあたり町等からの補助を要望している団体もあり、支援方法について検討する必要がある。また、各団体の構成員が高齢化しているので、後継者の育成と確保が課題となっている。 ・コロナ禍での活動であったため、例年の参加人数には至らなかった。今後も感染状況を鑑み、感染対策を取ったうえで美化清掃活動を行っていく。